

## 7 社会貢献

### 【到達目標】

社会貢献を果たすため教育研究活動によって知的財産を集積させることに努める。集積した知的財産を広く社会に還元できるシステムの構築を図る。

知的財産を広く還元するために、他大学、企業、地方自治体等との連携を強める。

教員が社会貢献に積極的に取り組める環境を整備する。

知的財産に関する学内規程を整備する。

### 1. 社会への貢献

#### 1) 社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度

##### 【現状説明】

これまで共通科目の「総合」、「女性学」を公開講座として 1980 年代から公開してきた。また、2000 年度に創立 100 周年記念事業の一環として、津田梅子記念交流館（以下「交流館」）を設置した。交流館は、活動理念の一つに地域との交流を掲げ、公開フォーラムを初め、さまざま文化交流プログラムを実施している。2008 年度には、千駄ヶ谷キャンパスが開設され、同キャンパスのオープンスクールでは、さまざまな講座が児童・生徒・学生・一般市民に開講されている。

##### 【点検・評価】

交流館が文化交流の拠点として、幅広い活動を展開している。

次項でも掲げているが、小学校の英語教育のためのワークショップなどの事項も取り上げ、社会との文化交流に努めている。

##### 【改善方策】

2008 年度から千駄ヶ谷キャンパスが開設され、地域との交流の機会が拡大した。交流館、千駄ヶ谷キャンパスオープンスクールを中心として、社会との文化交流等を一層活発にするための教育システムを充実させていく予定である。

#### 2) 公開講座の開設状況とこれへの市民の参加状況

##### 【現状説明】

共通科目の一般市民の方の聴講生数

「総合」 各回 20 人～30 人

「女性学」 各期 各 7～8 人

2009 年度の津田梅子記念交流館での公開フォーラム一覧

半数のフォーラムで定員（20 人～30 人）を充足し、残りは定員の半数程度の参加となっている。

小中学生のための英語を使った国際交流 - ゲストの国はどんなところ？

あなたの創造性を開くクリエイティブ・ペインティング 補色とはなんですか？ ダニエル・モロー氏

音楽療法 濱谷紀子氏

英語によるワークショップ Parzival Andrew Wolpert 氏、田村祐子氏、丹羽敏雄氏

数学教員のためのワークショップ 柏原賢二氏他

英語教員のためのワークショップ 上田明子氏他

津田塾生と作る英語劇 『ピーターパン』～夢と冒険の世界へ～ 監修 吉田真理子准教授

語りのタベ ノルウェーの昔話『The Companion』-内なる声に耳をすます パート2 Wim Wolbrink 氏

Storytelling Workshop 『心に響く語り方 - 沈黙を学ぶ』 Wim Wolbrink 氏

中学生のための数学教室

広がる数の世界で計算に強くなろう 川畑ユリ子氏

アートセラピーの体験 加藤庸子氏

TOEFL(R)講座 -B Thomas Meyer 氏

写真展「名作ひとり旅」世界文学紀行・9カ国 15の舞台より 期 「雨」「風と共にさりぬ」「最後の一片」 栗原達男氏

TOEFL(R)講座 -A Thomas Meyer 氏

自分も相手も大切にコミュニケーション～きもちや考えを伝えよう・受け取ろう 岩井美代子氏

オイリュトミーで学ぶチームの力 - 出会いから対立へ、対立から創造へ - 樋原裕子氏

こころとからだのリラクゼーション～ストレスとの上手なつきあい方～ 坂上頼子氏

あなたの創造性を開くクリエイティブ・ペインティング

花は画家に何を教えているのでしょうか？ ダニエル・モロー氏

写真展「名作ひとり旅」世界文学紀行・9カ国 15の舞台より 期 「ひめゆりの塔とざわわのキビ畑 - 作者二人との偶然」「チップス先生さようなら」「誰がために鐘は鳴る」 栗原達男氏

火の呼吸～クンダリーニ・ヨガ入門編～ 加来禎治氏

私と沖繩「ひめゆりの塔」を書いた机と「ざわわ」の生まれた丘 栗原達男氏

津田梅子の息子・津田眞 米国留学中に迎えた日米開戦

このほか、ライティングセンター - 「書く」ということと私 講演会、メディアスタディーズ・コース連続講演会、企画広報課と新聞社のタイアップによる連続講演会など多岐にわたっている。

#### 【点検・評価】

30年近い実績のある公開講座に加え、交流館、ウェルネス・センターなどの大学の附属施設による公開講座、あるいは各種外部資金等で設立されたセンターによる連続講演会など、公開講座は多岐にわたり開設されている。固定ファンも多く、それぞれの担当者も企画立案の段階から、熱心に携わっている。

#### 【改善方策】

複数の部署が、さまざまな公開講座を企画、実施するので、若干の混乱が生ずる場合がある。このあたりの調整が今後の課題である。また、2008年度に新設された千駄ヶ谷キャンパスを活用した公開講座のあり方も検討すべき課題である。

## 3) 教育研究の成果の社会への還元状況

## 【現状説明】

教員個人の著書、論文、学会での発表、マスコミへの発信等による研究成果は日常的に行われている。2009年度、企画広報課が、読売新聞社と協力して、創立110周年の記念事業の一環として、本学の専任教員による連続市民講演会を行ったのは、その一つの事例と言える。プログラムは図表7-1の通り。

大学として組織的な還元の最近の例としては、英語教育の成果を小学校英語教育に活用させるために地元小学校、教育委員会と協力して、小学校英語教育のフォーラムを開催していることや日本語教員養成課程が中心となり、学外の教育機関と連携し、日本語学習者と日本人との交流の場を提供していることなどがあげられる。

図表7-1

2009年度 創立100周年記念連続講演会開催予定(読売新聞立川支局共催)

回	月日	講師	テーマ
第1回	4月18日(土)	学長 飯野 正子	津田梅子とアメリカ - 「女子英学塾」創設の背景
第2回	5月 9日(土)	国際関係学科 准教授 中山 俊宏	変わるアメリカ、変わらないアメリカ - オバマ政権の行方
第3回	6月13日(土)	国際関係学科 教授 加納 弘勝	ビーズと織物から見る世界 - 諸地域を 旅して
第4回	7月11日(土)	情報科学科 准教授 小館 亮之	ユビキタス社会の「安全」は守れる か? - 携帯/インターネットは免許制 に?
第5回	9月19日(土)	数学科 教授 丹羽 敏雄	人生を引き受けるために - そのリズム とパターン
第6回	10月10日(土)	英文学科 准教授 マリィ クレア	日本語とジェンダーを再考 - 「おねえ キャラ」は「どんだけ～」流行るのか
第7回	11月14日(土)	英文学科 准教授 坂上 香	「暗い時代」を生き抜くために - 犯罪 への眼差しを変える
第8回	12月12日(土)	英文学科 教授 高橋 裕子	女性の教育・研究を支援するとい うこと - 女性研究者支援センターの事例を 中心に
第9回	1月 9日(土)	英文学科 教授 中西 雅之	コミュニケーションは百薬の長!?! - 幸 せな日常と明るい老後のための「対話 力」の磨き方

## 【点検・評価】

教育研究の成果を社会に還元するべきという意識は学内で合意されている。教員個人の貢献、大学として組織的な貢献という両面から、社会に還元していることは評価できる。

## 【改善方策】

著書、論文といった既存の媒体に加えインターネットの普及で、教育研究の成果を社会へ還元することが容易になった。反面、これまで以上に速報性が求められることや、大学の思いとは違う方向で、成果が利用されるような問題点も予測される。成果の内容とともに還元の方法についても慎重な対応が必要となる。

## 4) 国や地方自治体等の政策形成への寄与の状況

## 【現状説明】

国や地方自治体等からの依頼による委員等への就任は図表7-2の通り。

図表7-2

所 属 / 年度	国			地方自治体			その他			合 計
	07	08	09	07	08	09	07	08	09	
学長	1	-	6	-	-	-	-	8	4	19
英文学科	-	-	-	-	-	-	2	1	-	3
国際関係学科	-	-	-	-	-	-	7	4	1	12
数学科	-	-	-	-	-	-	-	2	1	3
情報科学科	-	-	1	-	1	-	1	1	1	5
女性研究者支援センター	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
合 計	1	-	7	-	1	-	10	16	8	43

注：数字は就任年度の数字 大学に届出のあったものの延べ人数

## 【点検・評価】

国、地方自治体等の委員等の就任要請に対してはできるかぎり協力するという傾向がある。したがって、学長をはじめ各学科の教員も積極的に委員等に就任している。

## 【改善方策】

図7-2のデータは、本人の自己申告及び大学から教職員に依頼した件数を基に作成したので、実態はもう少し多いと思われる。社会貢献という観点から、大学として、国、地方自治体、公共団体等の委員などに就任した場合は、一定の評価をする必要があると思われる。

## 5) 大学の施設・設備の社会への開放や社会との共同利用の状況とその適切性

## 【現状説明】

授業に支障がなく、原則として本学教職員の立会いを条件に施設の一部（グラウンド、体育館、一般教室）を開放している。グラウンド、体育館は年間約10のスポーツ大会等に開放している。

教室は公的機関の検定会場に年間3～4回提供している。そのほか近隣の小学校の実習（写生）

や一般の方の構内見学等も支障がない限り認めている。社会と共同利用を利用している施設・設備はない。

**【点検・評価】**

構内に寮があることから、本学教職員の立会いを原則としている。社会貢献の一環としての施設開放の意義も認識しており、申し込みにはできるだけ応じているが、利用状況はここ数年変化がない。

**【改善方策】**

授業等の学事予定、寮の存在などの制約があり、すべての要望に応じることは無理であるが、できるかぎり応じる方針は堅持していきたい。